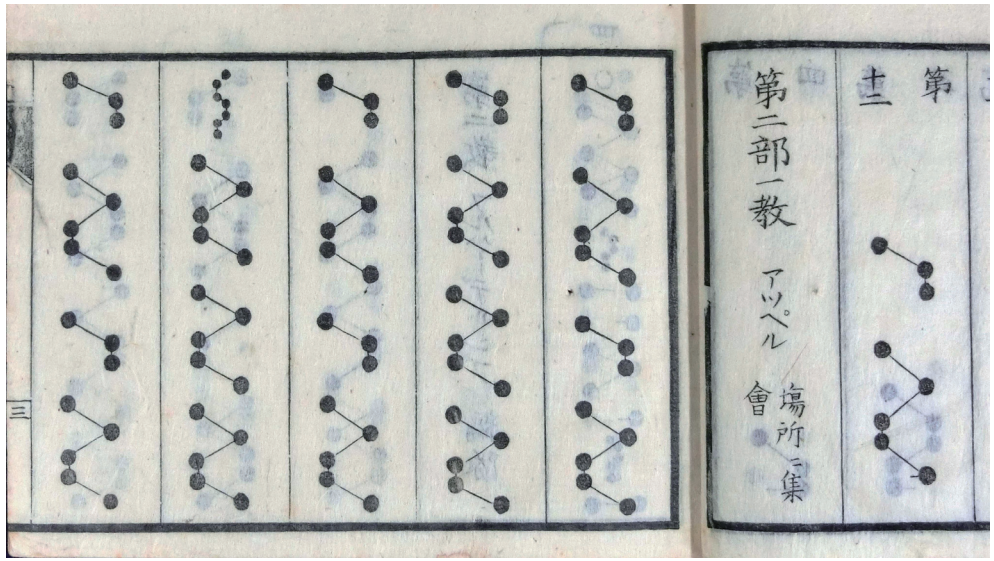
4-1-5　江戸幕府の滅亡

「鼓譜」（軍隊の西洋化）



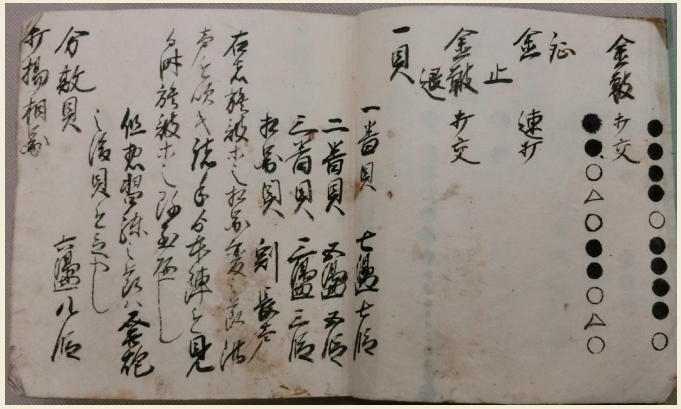
＊一般郷土資料1332 「鼓譜（長門練兵場蔵版）」

解　説

写真は，1866（慶応2）年に長州藩で刊行された「鼓譜」と呼ばれるドラムの楽譜です。長州藩では，幕末に軍隊の西洋化を図りましたが，西洋式の軍隊では，号令やドラムの信号で一斉に動いたり，リズムに合わせて行進したりする集団行動が不可欠でした。そのため，西洋式の軍備と一体のものとして西洋の音楽も入ってきました。

集団行動の指揮者となる鼓手（ドラマー）を速やかに養成しなければなりませんでしたが，五線譜と音符で書かれた西洋の楽譜は，当時の人々にとってなじみのないものでした。そのため，碁石を線でつなぎ合わせたような記号を用い，左右の手の動きを図で示した「鼓譜」が作られました。見た目は西洋音楽の楽譜には見えませんが，西洋式のスネアドラム（小太鼓）を用いて演奏されたリズムは，従来の和太鼓によるものとは全く異なるものでした。

ドラムの各リズムパターンには，それぞれ「進め」「止まれ」「集合」など行動の指示が割り当てられていました。



＊長州藩では，文化年間に軍制改革として，「神器陣」と呼ばれる新しい陣形が整えられました。しかし，軍の指揮には，依然として従来の和太鼓，鉦，ほら貝が使われていました（毛利家文庫15文武130「神器陣諸相図定例並陣図 」）。

山口県文書館所蔵アーカイブズガイド学校教育
目次に戻る